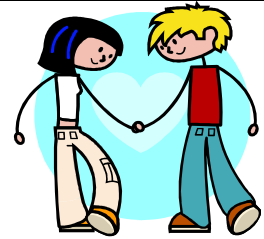


第32号 うつべ人権協ニュース



令和2年3月 発行
内部地区人権教育推進協議会

内部地区人権教育推進協議会は、「人が人として尊ばれ、住んでいてよかった 住んでみたいまち、うつべ」の実現をめざして、平成12年以来活動を続けています。

2019年度の第31号以降に、内部地区および南部ブロックで開催された人権に関する様々な事業の内容を皆様にお伝えするために、「人権協ニュース」（開催順に記載）を発行して各戸にお届けしますので、是非ご一読ください。

人権講演会を開催しました

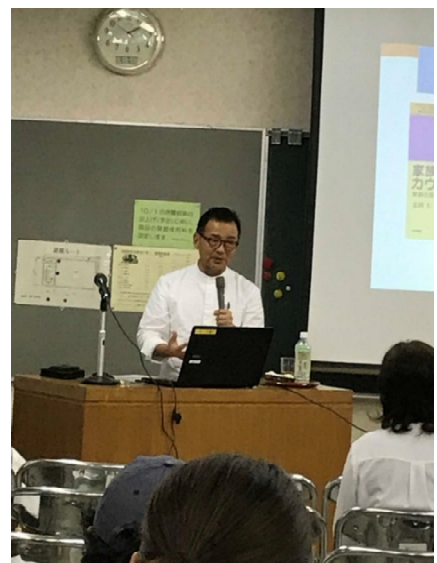
スマホ（＝ネット）依存と「きずな依存」

—ネット依存の中高生は全国で51万8千人—

令和元年9月29日（日）、内部地区市民センターにて内部地区人権教育推進協議会による人権講演会が開催されました。これは人権協委員の研修会として実施しましたが、地域住民の出席もあり参加者は約80名となりました。講師は奈良大学大学院教授の太田 仁先生にお願いして“スマホ（＝ネット）依存と「きずな依存」”という演題で講演をしていただきました。

内容は現代社会に欠かせないインフラとなっているスマホ・ネットが人間関係に及ぼす影響について、ネット利用には「光」（気軽にコミュニケーションができること等）と「影」（満たされない欲求等）があること、ネット依存が中高生でピークとなり、対人関係の不安と未熟さが露呈していること、ライン、ツイッターなどの利用時間が長い「きずな依存」が生じていること等を身近な事例やユーモアも交えてやさしく解説していただきました。

ここで注目すべきは「人はソーシャルアニマルである」、つまり人は人と一緒にないと生きていけない動物であり、常に助け合いながら生きているという対人関係の重要性のお話でした。スマホ・ネット社会にあっても人と人は繋がる心、支え合う関係が如何に大切であることを再認識させられた実りある人権研修会となりました。



人権地区懇談会で「身近なところにある人権」の課題を学習

内部地区では、昨年10月から12月までの間に、各町自治会の協力を得て人権地区懇談会を開催しました。采女町西部を皮切りに中堀町、小古曾町、采女町北部、波木町、南小松町の6町で開催しました。夜間の開催にもかかわらず、合計179名の参加を得て充実した懇談会になりました。

懇談会は昨年引き続き、四日市市人権センターの酒井孝彰所長と人権文化まちづくり担当の川北ひろみ先生をお迎えし、まず酒井所長から人権の基本について講話があり、「人権」ってなに?、「人権」の5つの重要なポイントなどについてのお話をいただきました。

その後、DVD「ほんとの空」を鑑賞しました。このドラマの主人公は向井弓枝で、彼女の勤めるスーパーでの高齢者の行動や自宅マンションでの高齢の人や障がいを持った人に対するイライラを皮切りに、外国人に対する排除、同和問題や原発事故に伴う誤った考え方や思い込みなどにより、様々なトラブルに発展していきます。しかし、最後には隣に住む外国人夫婦との関わりをきっかけに、自分が誤解や偏見を持っていたことに気づき、互いの関係が修復されていくという身近な物語です。

鑑賞後、参加者は5～6人のグループに分かれ、このDVDを観た感想や人権について普段感じていることを話し合いました。

今回の南小松での参加者からは、

- ① グループ討議は、発表などの堅苦しい形式でなかったので、気軽に参加出来た。
- ② 講話やDVDを鑑賞して、人権について再認識させられた。
- ③ 特に、外国人や高齢者に対する偏見や差別について考えさせられた。今後、内部地区も外国人や高齢者が増えてくると思われる。その人たちに対する接し方のいい勉強になった。

との感想が出されました。

最後に、四日市市民人権意識調査結果について解説があり、四日市市民の人権に対する考え方や意識を知り閉会しました。



第51回内部地区文化祭に

『人権意識を高め、育もう内部の絆』のテーマで、啓発コーナーを開設

11月3日(日)内部地区文化祭が開催され、例年通り人権啓発コーナーを開設しました。学校の協力を得て、小学生11名及び中学生19名の啓発ポスターを出展して頂きました。今回は、差別をテーマにした作品や、いろいろな角度から捉えた作品が数多く見られ、人権意識が高まっていると感じました。地区の皆さんは、人権啓発作品をどう捉えましたか。来年も計画しております。ご来場をお待ちしております。



内部中学校で人権フォーラムが開催されました

~~「こんなとき、あなたならどうする?」~~

11月26日(火)内部中学校において、校区内の小学6年生と中学2年生の計361名が参加して「人権フォーラム」が開催されました。

この人権フォーラムは小中学生がともに集い、人権について話し合い、お互いの考えを聴き合うという目的で、四日市市内の全中学校区で開催されています。内部中学校区では人権協の役員をはじめ関係者の方も多数参観に来ていただきました。

今年は体育館での全体会の後、小中学生が60のグループを作り、教室や特別教室など9つの室に分かれて話し合いました。「こんなとき、あなたならどうする?」というテーマで3つの話題について、それぞれが自分の考えを持ち、それをグループ内で交流しました。



- A 車いすの人がエレベーターに乗ろうとしたが、満員だった。自分は先に乗っていたのでゆずらない。
- B (車いすの人が)「じゃま!」と暴言を言われているのを見たが、通りすぎる。
- C (車いすの人に)「大変ですね。がんばってください」と声をかける。

上記の3つの行動は「差別している」と言えるか、「差別をしていない」と言えるのかを考えました。話し合いでは、各グループのファシリテーターや司会の中学生がみんなの意見を上手に引き出しながら進行していました。話し合いの中で、A「車いすの人はエレベーターしか乗れないので、



ゆずるべきだと思う」、B「暴言を注意するのは勇気がいるけど、“それはあかんやろ”という空気を出すことはできる。あかんことは見過ごしたくない」、C「大変ですねという言葉は言い方にもよるが、他人事に聞こえる」「大変ですねって上から目線で話しているように聞こえる。頑張っているのに頑張ってくださいって言われたくないと思う」など自分の経験から感じたことを自分の言葉で語り合う

姿が多数見られました。

グループ討議を経て、物の見方やとらえ方が広がり、自分の考えを変える子どもたちもいました。お互いの考え方に感心したり、違うものの見方を知らされたりして、小学生にとっても中学生にとっても学ぶことの多い人権フォーラムとなりました。

南部ブロック「人権ひろば」

「人権作文」発表と人権講演会「壁なき社会へ」の開催

1月26日(日)、南中学校において南部ブロック「人権ひろば」が開催されました。これは、内部・日永・河原田・塩浜・楠の5地区が交代で毎年開催しています。

第1部では、小中学生の人権作文の発表があり、内部地区からは内部小学校6年生の堀川翔大さんが「障がい者の方が暮らしやすい町にするために」と題して、障がい者や高齢者等が暮らしやすい世の中にするために、病院や電車内での携帯電話の使用を控えたり、障がい者用の駐車スペースに車を止めないようにしたり、人に代わるロボットや行動を補助する義足の利用を進め、思いやりをもって自分でできることは積極的に手伝いたいと発表されました。日常のできごとの中に人権の問題意識を見出し、それを改めるべく自ら行動を起こそうとしている、素晴らしい発表でした。

第2部では、日本キリスト教団 正教師(牧師)で、宗教とLGBTネットワークの代表をされている中村吉基さんによる「壁なき社会へ ～LGBTの一人として生きる～」と題して講演が行われました。

講師は、LGBTを理解し支援する人を増やして、LGBTの一人として堂々と自分らしく生きられる社会の実現を目指して活動しています。講演では、同性カップルの直面する諸問題、LGBTの置かれている現状の説明がありました。



作文を発表する堀川翔大さん

人権センターでは人権に関する教材を用意しています。

人権センターは、人権意識を確立し、暮らしの中に人権が根付いた、人権文化にあふれた社会の実現に向けて、人権教育・啓発を推進するための施設です。

地域、学校、職場、ご家庭などで、人権について学ぶための教材として、啓発冊子の無償配布や、図書、ビデオ、DVD、パネルなどを貸し出しています。

四日市市人権センター

検索

四日市市人権センター

〒510-0085 四日市市諏訪町2番2号(総合会館7階)

電話/059-354-8609 FAX/059-354-8611

E-mail/ jinkencenter@city.yokkaichi.mie.jp

お問い合わせ
ご相談はこちら!

